

竹島資料室の活動について

島根県竹島資料室

はじめに

島根県松江市にある竹島資料室は、島根県が所有する竹島関係の歴史的公文書や「竹島問題研究会」の研究成果と収集資料を公開し広く利用してもらうため、そして竹島問題についてより一層の啓発活動を行うため、2007(平成19)年4月に島根県が開設した。

本資料室が所蔵・公開する歴史的公文書や研究成果、各種史資料は、来室者にとって事実に基づき多角的に考察するための一助となるものである。気軽にご来室していただき竹島問題への理解を深めていただくとともに、広く調査研究に利用していただけるよう、資料室の活動もさらに充実させていきたい。以下これまでの活動や、最近発表した資料について紹介する。

1 条例制定から竹島資料室の設置まで

2005(平成17)年の島根県議会2月定例会において議員提案された「竹島の日」を定める条例案が3月16日に可決され、同年3月25日に島根県条例第36号「竹島の日を定める条例」が公布・施行された。条例制定の経緯については常設の展示パネルで紹介している(資料1および資料2)。以下が島根県報に登載された条例全文である。

竹島の日を定める条例をここに公布する。

平成17年3月25日

島根県知事

澄田信義

島根県条例第36号

竹島の日を定める条例

(趣旨)

第1条 県民、市町村及び県が一体となって、竹島の領土権の早期確立を目指した運動を推進し、竹島問題についての国民世論の啓発を

図るため、竹島の日を定める。

(竹島の日)

第2条 竹島の日は、2月22日とする。

(県の責務)

第3条 県は、竹島の日趣旨にふさわしい取組を推進するため、必要な施策を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

条例制定後、島根県が2005年6月に竹島問題研究会(第1期)を設置した。下條正男座長のもと活動した研究会より2006(平成18)年5月に中間報告書、2007(平成19)年3月には最終報告書が提出された。

島根県はこの成果を生かした新たな取り組みとして2007年4月¹には旧島根県立博物館内に竹島資料室を開設し、竹島に関する歴史資料を保存、公開するとともに、竹島研究の拠点としての活動を行うこととした。

同年9月には県のホームページに「Web 竹島問題研究所」を立ち上げ、これまでの調査研究成果を公開するとともに、新たな論点にも対応できる研究体制を整えることとなった²。

2 竹島資料室の活動

(1) 資料室展示(資料3および資料4)

以上のような目的で設置された竹島資料室の主な活動は、竹島問題の啓発とWeb 竹島問題研究所の運営にある。啓発の1つが企画展示で、夏季の7～8月は小学生を対象として、分かりやすく楽しい展示になるよう企画している。近年は島根県大田市にある三瓶自然館サヒメルにあ

1 条例制定後最初の竹島の日となる2006(平成18)年2月22日は記念行事「竹島の日集い」を開催し、2回目となる2007年は2月24日に「竹島の日記念式典」が開催された。式典に先立ち2月22日に、旧県立博物館内に竹島に関する写真資料などを展示する竹島資料室が仮オープンした。その後同年4月19日に正式オープンし、竹島資料室が常設された。

2 ホームページ上では研究内容や県の取り組みに対してさまざまな意見が取り交わされ、開設から5カ月で9万件を超えるアクセスとなった。9月以降、2007年度中に竹島問題の資料や研究に関する質問が13件寄せられ元研究会委員や事務局(総務課)が回答、島根県への要望などが30件寄せられこれらにも事務局からの回答を掲載した。2008年度は、42件の質問(江戸時代から戦後まで)と32件の意見・要望が寄せられ、Web 竹島問題研究所に質問と回答を掲載した。

るニホンアシカの幼獣のはく製を毎年借用し展示している。これまで、ニホンアシカについて、竹島の生き物、韓国の子ども新聞記者から送られた質問とそれに対する回答、竹島に行った船、などをテーマにした展示を行った。

2013(平成25)年以降毎年夏季企画展示中に、絵本『メチのいた島』の作者杉原由美子氏³による絵本を読む会を開催し(コロナによる中断が令和2～4年)、聴衆の方の関心を高めている。

竹島の日の前後の1月から3月にかけては、竹島の日記念式典特別展示として毎年テーマを決めてパネル展示を行っている。特別展示については、竹島問題研究会の報告書を参考にし、各委員や竹島問題研究顧問⁴に相談の上、指導、助言をいただきながら説明パネルを作成している。

(2) 出張展示

竹島資料室内での展示の外、2016(平成28)年から島根県内市町村の協力のもと毎年二か所の市町村において出張展示を行っている

松江市にある竹島資料室で展示しているパネルと同じ内容のものを展示し、それに加えて展示を行う地域で竹島にゆかりのある出来事を取り上げて、より竹島問題を身近に感じていただけるよう心掛けて⁵。

3 島根県隠岐の島町久見生まれ。久見在住。2013(平成25)年に『メチのいた島』を出版。竹島とその近海で自由に漁を行うことができた頃の隠岐の島町久見地区の住人と竹島の関係を描いた作品。「メチ」とは、ニホンアシカの地元での呼び名。竹島資料室では2013年から毎年絵本を読む会を開催(コロナによる中断が令和2～4年)している。2020(令和2)年に英語版を製作。

4 島根県は2006年4月から竹島問題研究顧問を配置し、県が行う竹島問題に関する調査研究活動等に対して専門的な助言、指導をいただいている。2006年4月から杉原隆先生、2012(平成24)年9月から佐々木茂・下條正男・塚本孝・藤井賢二・升田優の5名の方々が就任し現在に至っている。杉原隆先生には、顧問引退後も数々の助言をいただき、展示についても多大なご指導をいただいた。Web 竹島問題研究所に資料紹介等レポートを執筆していただき、あらゆる場面で参考になっている。

5 藤井賢二「竹島問題啓発パネル展「出張竹島資料室 in 浜田」について」『島嶼研究ジャーナル』第15巻1号(2025年11月30日)において、2025(令和7)年7月に行った竹島問題啓発パネル展「出張竹島資料室 in 浜田」を紹介していただいた。2021(令和3)年の大田市での展示では旧川合村(島根県大田市)の村長(1922-1930年)を勤めた庵原文一を取り上げた。水産伝習所出身の庵原文一は、1908(明治41)年、大韓帝国農商工部水産局水産課長となり『韓国水産誌』(第1輯～第4輯)を編集した。

出張竹島資料室の実施状況

実施年度	実施時期	実施市町村	備考
2016(平成28)	8月	浜田市	浜田市役所ロビー
2017(平成29)	※同時実施	隠岐の島町	西郷港フェリーターミナル
		西ノ島町	別府港フェリーターミナル
		海士町	菱浦港フェリーターミナル
		知夫村	知夫村役場ロビー
	9月	大田市	大田市役所ロビー
2018(平成30)	7月	出雲市	出雲市役所ロビー
	8月	益田市	益田市役所ロビー
2019(令和1)	6月	安来市	安来市役所ロビー
	7月	江津市	パレットごうつ
2020(令和2)	8～9月	雲南市	雲南市役所多目的ホール
	9～10月	隠岐の島町	隠岐島文化会館
2021(令和3)	7月	浜田市	浜田市役所ロビー
	8月	大田市	大田市中心図書館展示コーナー
2022(令和4)	7月	出雲市	出雲市役所ロビー
	8月	益田市	益田市役所ロビー
2023(令和5)	7月	江津市	江津市役所ロビー
	8月	安来市	安来市役所ロビー
2024(令和6)	8月	雲南市	雲南市役所多目的ホール
	9月	隠岐の島町	西郷港フェリーターミナル
2025(令和7)	6月	大田市	大田市中心図書館展示コーナー
	7月	浜田市	浜田市役所ロビー

実施期間：おおむね1か月程度

(3) Web 竹島問題研究所

Web 竹島問題研究所ではトップページで新着情報をお知らせしているが、一定期間経過後は内容によって移動し、多くは「調査研究」の項目の中に蓄積されている。

「調査研究」と「竹島問題研究会」の項目はWeb 竹島問題研究所でメインとなる場所で、竹島問題研究会の調査報告書(第1期～第5期研究会の中間報告書及び最終報告書)の全論文や竹島問題研究会の開催状況を公開している。また、竹島問題研究会委員個人の研究活動による報告や新しい情報、地元紙山陰中央新報に掲載された竹島問題に関して時勢に適し

たコラムなども「調査研究」のコーナーで「研究スタッフ、研究協力員からの報告はこちら」の中に収録している。

さらに「調査研究」のコーナーには2026(令和8)年より「竹島関連古文書」を新設し、大谷家文書、村川家文書と絵図を公開している。

2007(平成19)年の開設当初から寄せられた「竹島問題への意見」とそれに対する回答は、「お問い合わせ」の「今までにいただいた質問と回答」の中にあり、現在も貴重な情報源となっている。

3 最近公開した資料

竹島資料室には竹島問題研究会の委員や竹島問題研究顧問より寄せられた資料や情報が集まっている。また、外部の方からも竹島に関する直接的、間接的な資料や情報が寄せられ、それぞれ竹島問題研究会の委員や竹島問題研究顧問に確認をしていただいている。

竹島資料室やWeb竹島問題研究所が認知され、情報が寄せられる中、貴重な資料を島根県は入手してきた。最近では江戸期の竹島渡海に関する1次資料である大谷家文書と村川家文書を島根県は取得し、2026(令和8)年1月にWeb竹島問題研究所に公開した。2018(平成30)年7月23日取得の大谷家文書(551点)、2024(令和6)年8月22日に取得した村川家文書(69点)、2025(令和7)年12月19日取得の村川家旧蔵の絵図2点(「松島之図」及び「竹島之図」)である。それぞれ画像データを公開し、大谷家文書については全文書の翻刻も公開している。

中でも絵図については、村川家文書に含まれる絵図1点(「雲州より隠岐松島竹島全図」と、昨年末に取得した「松島之図」及び「竹島之図」との3点は初めて原本が確認されたものである。

(1) 隠岐松島竹島の絵図(「雲州より隠岐松島竹島全図」)

村川家文書に含まれている「雲州より隠岐松島竹島全図」は、一部が欠落しているが、図中の書き込みに「享保九辰ノ年写置」とあり、鳥取藩が1724(享保9)年に幕府に提出した絵図⁶との関連が考えられる。また『大谷家由緒実記』(大谷家文書1-2)『御公儀江御訴訟之御請并竹嶋渡

⁶ 三田清人「鳥取県立博物館所蔵 竹島(鬱陵島)・松島(松島/独島)関係資料」『竹島問題に関する調査研究』最終報告書 島根県総務部総務課 2007年 45-48頁

雲州より隠岐松島竹島全図



海之次第先規より書写シ覚記』(大谷家文書4-22)』など鬱陵島渡海禁止以後に編集された渡海事業や家業の記録の中に、「有増しの絵図」「大概之絵図」として書かれた絵図の元図と思われる。

図中の「松嶋之図別紙有り、此図少々相違有之、詳ハ可見別図、委細少々之小濱小谷迄書記ス」の記載により、松島(現竹島)の詳細な図が別にあることがわかり、その図が「松島之図」にあたると思われる。

(2) 「松島之図」

図の右上には

松島之絵図島之惣廻り壱里之内
隠岐国より松島江之渡海道範百里余
松島より竹島江道範三十里余